

274. 筑波大学スポーツクリニックにおける

3年間のスポーツ傷害統計について

○高山貴久子、佃 文子、碓田智也、鮫島菜穂子、佐藤かおる、安田貴彦、下田政博、藤井一朗(筑波大学)、榑木聖也(関東学園大学)、水澤克子(甲南大学)、岩本 淳(青山学院大学)、白木 仁、福林 徹、下條仁士、宮永 豊、河野一郎、松田光生、林浩一郎、枋堀伸二、大木昭一郎(筑波大学)

＜緒言＞筑波大学ではスポーツ傷害に対するアスレチック・リハビリテーションの確率・実践をめざして昭和62年12月より「スポーツクリニック」が開設され、昭和63年3月には「トレーナーズ・ルーム」が仮設置された。そして平成元年6月には施設を充実し、競技力の向上に役立つ研究とアスレチック・リハビリテーション等を行なってきたが、平成4年3月スポーツ医科学プロジェクト終了にともない「スポーツクリニック」が終了することになった。そこで今回は、トレーナーズルームが新設設置された平成元年6月から平成4年3月までの活動及び利用状況について報告する。なお本年4月以降もスポーツクリニックの活動は継続されている。

＜対象と方法＞本研究の対象は平成元年6月から平成4年3月までの34ヵ月間に来室した者すべてを対象とし各項目について集計を行った。

＜結果及び考察＞平成元年6月から平成4年3月までの34ヵ月までの開室日数は751日、初診者数は1220名、のべ来室者数は16027名で1日平均利用者数は21.3人、一人平均13.1回利用した。来室者の属性として1、2年生に多いという結果が得られ、これは本学入学以前の中学、高校の時期に受傷した傷害によって来室してきたものが多いためと考えられる。競技団体別の初診者数では、チームドクターを持つ団体が多くなる傾向にあり、これを部員一人あたりの初診回数で見ると柔道部が特に多かった。これは柔道という競技が対人的でかつ激しいことを示し、世界レベルの部員も多く、厳しいトレーニングに伴う傷害が多くなること、また選手自身のコンディショニングに対する意識が高まっていると考えられる。膝関節ACL損傷の平均復帰期間が長期間であることから、受傷後の競技に大きな影響を与えるとともにリハビリテーションが重要視される。本学では、以前より各種充実した機器の設置やシステムによって綿密な活動が可能になった。今後のトレーナーズルームの課題としては、スポーツにかかわる全てのものの共通理解を得てスポーツ集団に対する組織的かつ縦断的なフォローをすることがより効果的なスポーツ医学の実践に結びつくと考えられる。

＜まとめ＞1) 751日の開室日数で、来室した初診者数は1220名、のべ来室者数は16027名、1日平均利用者数は21.3人、一人平均利用者回数は13.1回であった。2) 初診の内訳は、学年で1、2年生に多く、利用回数が多い競技団体は柔道部であった。3) 初診の傷害は、足関節捻挫が多く、その後の追跡では膝関節ACL損傷が競技復帰に長期間かかった。4) 競技種目による受傷部位に特徴がみられた。

key word スポーツクリニック 柔道部 膝関節 ACL損傷